

令和7年度 江戸川区立江戸川学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標 自他ともに認め合い、主体的に行動する人		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	保護者・地域とともに共育・協働する学校 自他ともに認め合い、主体的に行動できる児童 教え育むプロとしての指導力がある教師
前年度までの本校の現状	成果	<成果> ○日常生活の中に運動を取り入れることで体力を向上させることができた。人権尊重教育推進校として、児童一人一人を大切にしたい指導や支援ができるように児童理解を深めた。	課題 <課題> ○さらなる児童理解と、児童の人権に配慮した支援の工夫を充実させる必要がある。また、個別最適な学びを保障するための学習指導力、生活指導力の向上も必要である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・授業展開の統一化 ・毎学期、東京ベーシックドリルの診断テスト、漢字テストの実施	・児童アンケートにおいて80%以上が肯定的評価	C	B	B	保護者の肯定的評価が90%を超えている。取組みを継続していく。	A	良好である。	A	最終評価では、保護者・児童の肯定的評価が90%を超えた。取組みを継続するとともに、さらなる授業改善に務める。	A	良好である。	次年度は、「話し合う」活動に焦点を当てた授業改善に取り組む。
		・週2回の自主学習の実施	・児童アンケートにおいて80%以上が肯定的評価	C	C	C	結果の分析途中であるが、学年によっては伸びている児童がいる。一層向上するように取り組んでいく。	C	取組の継続を期待している。	C	学習の手引きの改訂やテーマを決めて全学年で取り組むようにした。今後も児童に働き掛ける。	B	楽しく学習できるように手立てを充実させてほしい。	全学年でテーマを決めて実施する週を設定して継続させる。
	○読書科の更なる充実	・探究的な学習を全学年年間12時間実施 ・高学年において思考ツールを活用した授業の実施	・100%実施	B	B	B	読書科の学習につながる探求的な学習を実施している。10月からは、全学年で探求的な自主学習を行う。	B	取組の継続を期している。	C	児童の実態に合わせた取組に変更する必要がある。読書科の学習につながる探求的な学習を計画的に実施する。	B	取組の継続を期待している。	計画的に実施できるよう、年度当初に職員への周知を徹底する。
体力向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・始業前の全校運動遊び、朝運動の実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が肯定的評価	A	A	A	児童の肯定的評価は86%、保護者は70%を超えている。今後も取組を継続していく。	A	取組の継続を期待している。	A	児童の肯定的評価が90%を超えた。活動内容を改善し、児童がより意欲的に取り組めるようにする。	A	体力がさらに向上するように、取組の継続を期待する。	年間計画を見直し、活動内容を充実させる。
		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・80%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加	A	A	B	児童はコンテストに意欲的に取り組んでいる。継続していく。	B	取組の継続を期待している。	B	児童はコンテストに意欲的に取り組めた。次年度も継続する。	B	取組の継続を期待している。	実施期間の周知を徹底して、活動を充実させる。
	・休み時間に体力向上を目指した運動の実施	・全校で毎学期1回実施	B	A	A	縦割り班活動を活用しながら積極的に体を動かすようにした。教員が休み時間にも校内を巡回し、外遊びを児童に働き掛けた。	A	取組の継続を期待している。	A	東京都の体力調査において、全学年の男女ともに東京都の平均を上回る結果となっている。	A	良好である。	R6、R7ともに東京都の平均値を上回っている。継続していく。	
実現に向けた共生社会の教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、管理職と特別支援教育担当教員等との打ち合わせを実施	A	B	A	打ち合わせは実施してきている。今後も担任の指導が充実するように、連携する。	B	取組の継続を期待。	B	年間を通じて、定期的に打ち合わせを行うことができた。	B	取組の継続を期待する。	今後は家庭との連携が促進するような周知の方法を検討する。
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・毎学期1回、SC等によるエンカレッジルームの周知	B	B	B	児童の肯定的評価は80%を超えている。今後も、児童が友達と関わろうとする意欲を高められるような活動を継続する。	A	取組の継続を期待。	A	10ポイントほど児童の自己有用感が高まる結果となった。	A	特色の一つになっている。内容の充実を期待する。	児童が友達と関わろうとする意欲を高められるような活動を継続する。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	B	B	B	学校から積極的に働き掛けることで、連絡会を開催することができている。今後も継続していく。	A	取組の継続を期待。	A	学校から積極的に働き掛けることで、連絡会を開催することができている。今後も継続していく。	A	配慮の必要な子どもについては、大切なことである。継続してほしい。	より組織的に対応できるように担当を新設する。
不登校・いじめ対応	○豊かな心の育成	・毎月1回、異学年（なかよし班）活動の実施と活動後の振り返りの充実	・児童アンケートにおいて、80%以上が肯定的評価	A	B	B	情報共有だけでなく、教員自らが、たくさんの児童と積極的に関わるようにしている。今後も継続する。	A	取組の継続を期待している。	A	担当学年だけでなく、他学年についても積極的に関わっている。今後も継続する。	A	取組の継続を期待している。	副担任も発言する場面を設定することで、より情報共有を密に行う。
	○OL-Gateの活用	・L-Gateによる児童の実態把握と児童支援の充実	・年1回L-Gateの研修の実施及び各学期1回児童理解研修の実施	A	A	A	QUテストを担当が分析し、今後の方針を保護者に伝えるようにしている。今後も継続していく。	A	取組の継続を期待している。	C	Lgateの導入も行き、より児童の様子が分かるようにしたが、実施時期が遅れた。	A	取組の継続を期待している。	年度当初より計画的に実施できるように今年度中に準備する。

心の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100%	A	A	A	登校が渋りがちな児童の家庭とSSWとをつなぐことができた。今後も継続する。	A	取組の継続を期待している。	B	登校が渋りがちな児童の家庭とSSWとの信頼関係ができています。今後も継続する。	B	取組の継続を期待している。	SCも積極的に関わることができるよう時間設定を工夫する。
	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・各学年週2回更新を行う	A	A	A	毎週1回更新は実施できているが、2回更新できていない学年がある。全学年の達成を目指す。	A	良好である。	A	ホームページの記事掲載件数571回（昨年比+142%）、月平均アクセス数7375（昨年比+122%）とすることができた。	A	取組の継続を期待している。	更にアクセス数が増えるように組織の改編を検討していく。
学校（園）地域社会に開かれたの実現	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施	A	A	A	ふれあい給食も実施し、様々な機会を通して児童の様子を見てもらえるようにしている。継続する。	A	学校から連携しようとする姿勢を評価している。今後も継続を期待している。	A	PTAと町会と連携した防災まつりを開催するなど、児童を育む姿勢を理解していただけることができた。継続する。	A	取組の継続を期待している。	学校側から連携を推進できることはないかを考え発信していく。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間55時間以下	C	B	B	定時退勤を促しているが、残業の続く教員もいる。今後も改善に努めていく。	B	取組の継続を期待している。	C	時間外の対応を求める保護者もあり、調整の難しい場面があった。	B	対応に感謝する。保護者の理解をより促進する必要があるが、心情に寄り添いながら対応を継続してほしい。	定時退勤日は全員が6時までには退勤できるよう促していく。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・教員が互いに授業を参観し合う授業公開Weekを毎学期1回実施	B	B	B	研究授業を予定通り実施している。授業公開だけでなく、さらなる改善が図れるように、意見交換の機会を設定していく。	B	取組の継続を期待している。	A	授業公開だけでなく、OJT研修などの機会を利用し、授業改善に努めることができた。	A	取組の継続を期待している。	全教員が年1回は、研究授業に関わる公開授業を実施するようにする。
	○教科担任制の推進	・全学年での教科担任制の推進	・2学期以降、全学年で教科担任制を実施	B	A	A	教科担任制を実施することにより、児童理解が深めることができた。	A	取組の継続を期待している。	A	学習指導だけではなく、生活指導上の問題についても様々な視点から児童観察を行いトラブル回避につながった。	A	取組の継続を期待している。	今後も継続していく。